

広報発行100号記念特集 「地域、人、心 溢れる郷土愛 そんな真心を伝えたい」 広報の真骨頂



ケーブルテレビななお
カメラマン
西川洋吾

ケーブルテレビななお
カメラマン
加地敬穂

ケーブルテレビななお
カメラマン
川島広幸

ケーブルテレビななお
アナウンサー
山口千春

広報担当
本田恭平

ケーブルテレビななお
アナウンサー
川森有紗

ホームページ担当
丸山尚樹

ホームページ担当
寺田能武

まなざしの会
橋本紀美子さん

広報・
ソーシャルメディア担当
高木伸安

ゆうの丘
瀬戸紀代美さん

ゆうの丘
福原恵莉花さん

まなざしの会
河内君代さん

まなざしの会
赤倉美智子さん

まなざしの会
金岡菊子さん

ゆうの丘
小林勇太さん

ゆうの丘
杉原さと美さん

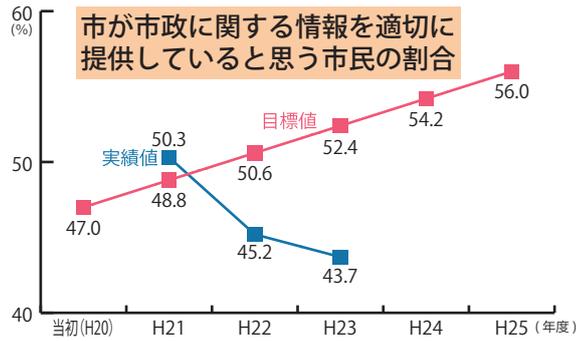
Team広報のメンバーたち

ここ数年、市役所からの発信媒体として、ケーブルテレビや防災メール、フェイスブックやツイッターなどが誕生している。発信媒体が増えたのだから、市役所から市民への情報発信量は、間違いなく、以前と比べ増加している。しかし、アンケート結果では評価されていない。これは、

さて、100号を記念しての特集は「広報の真骨頂」。広報とは、「組織などが公衆と良好な関係を構築するための活動」をいう。では、市役所の広報活動は、市民からどう評価されているのか。毎年、市が実施している市民アンケート調査による「市役所が情報を適切に提供していると思う市民の割合」では、年々右肩下がりとなっている。

明けておめでとうございます。今年も、「溢れる郷土愛を伝える七尾市の広報」を目指して、制作していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。今月号は新春号、そして、記念すべき100号となります。100号を迎えることができましたのも、市民の皆さんがご愛読いただいているおかげだと思っております。本当にありがとうございます。

市役所が、市民が求める情報を的確に発信しておらず、市民は不満をもった状態だといえるのではないだろうか。



市役所は情報を発信する義務があり、市民は情報を知る権利がある。市役所は、市民との良好な関係を築きあげる努力が必要である。

今回の特集では、市民の皆さんに、市役所からの広報そのものを知っていただき、市役所はあらためて市民の意見を聴く。そして、課題が生まれ、七尾市の広報を改善していく。そこから、広報の真骨頂を發揮し、「溢れる郷土愛を伝える七尾市の広報」を目指したい。

「広報ななお」ができるまで

① 企画・情報収集 (2カ月前)
毎月、特集や行政情報、イベント情報やまちの出来事などを掲載しています。



これらのコーナーを掲載するため、担当者がアンテナを張り、情報収集に努めています。そして、得た情報をどのコーナーで、どのような表現方法(デザインなど)で伝えるのかを企画します。一番時間を費やすのは、特集企画です。

② 取材 (1カ月前)
担当者が直接、現地に向き取材します。現場でしか感じられないものを感じ、写真を撮ります。また、五感を研ぎ澄まし、感じたことなどをメモにして記事のパーツにします。



③ 編集 (3週間前)
記憶に残る写真を選び、記録となる文章を作成。そして、レイアウトをします。

④ 入稿 (2週間前)
編集したデータを印刷会社に渡し、専用ソフトで印刷用データに変換。



⑤ 校正 (10日前)
完成したデータを確認してもらったため、関係者へメール発信。同時に、実際の印刷機で印刷し、見やすくなっているか、思ったとおりの色が印刷されているかをチェックします。

⑥ 印刷 (7日前)
最終チェックを終え、印刷会社で23,100部を印刷。



⑦ 声の広報 (5日前)
視覚障がい者の皆さん(登録数26人)にも広報がわかるように、ボランティアの皆さんが広報を読み上げ、カセットテープに録音。その後、視覚障がい者の皆さんへカセットテープを発送します。ボランティア数(10人・2団体)

⑧ 納品 (発行日前日)
発行日(毎月5日、土日祝日の場合、前日)発行)前日に、市役所、各市民センターに配達されます。



⑨ 配布 (発行日当日)
市役所職員が各町会長宅や集会所へ配達。その後、各町会から各家庭へ配布します。

⑩ 県外配布 (発行日当日)
七尾市が故郷である県外在住者や公共施設などへ広報を発送。(約270部) 発送作業は、障がい者の就労訓練を目的に、「ゆうの丘」の皆さんが行います。



まなぎしの会 (声の広報ボランティア)



声の広報に携わって今年で20年。社会貢献ができる感謝の気持ちを持って行っています。視覚障がい者の方々に、少しでも心地よく聞いてもらえるよう、毎月努力しています。一緒に活動をしてくれる方も募集しています。

ゆうの丘 (広報誌発送作業)



平成10年頃から知的障がい者が行う作業の一つとして始めました。約270部の広報を、相手に気持ちよく読んでもらうため、一部、丁寧に心を込めて発送作業をさせてもらっています。この作業ができることに感謝しています。